

令和4年6月6日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

養父市新文化会館整備事業等特別委員会
委員長 植 村 和 好

養父市新文化会館整備事業等特別委員会調査中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

記

- 1 調査年月日 令和4年4月7日（木）
- 2 調査事項（1）八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について
（2）Y B ファブの利用状況について
（3）文化会館等建設事業、周辺市道整備事業及び旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活用事業の実績（見込み）について

3 調査内容

八鹿文化会館・公民館解体工事の進捗状況及びY B ファブの利用状況並びに文化会館等建設事業、周辺市道整備事業及び旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活用事業の実績（見込み）について、市民生活部公民館及びまちづくり文化交流課並びにまち整備部土地利用未来課及び建設課から説明を受け調査を行った。

（1）八鹿文化会館・八鹿公民館解体工事の進捗状況について

八鹿文化会館・公民館解体工事は、令和3年10月に着工し、令和3年度末の進捗状況は、計画51.2%に対し52.7%の実績である。

今後の工程は、5月初旬までに文化会館躯体部を解体、中旬までに解体したコンクリート殻の搬出、その後6月にかけて基礎部を取壊し殻処理した後、整地及び砕石舗装で完了としている。

工事受注者は、解体工事前にアスベスト調査を行い、当初設計にあったホール天井・和室吹付材、ボイラーパッキン等に加えて、新たに2階

屋根アスファルト防水材、耐火ボード、断熱材への混入を確認した。なお、全てのアスベスト含有物は適切に撤去し、特定処分場への搬出を完了した。

工程に大きな遅れはないものの、新たなアスベスト処分費と、近隣住居への防音対策、工期延長による仮設材使用料及び警備員などの安全対策費が増額予定で、6月議会に契約変更の議案を上程する予定である。

(2) YBファブの利用状況について

令和3年9月から令和4年3月迄のホール棟、図書館棟の利用者数は、ホール観客数9,331人、会議室や調理室など7,570人で、合計16,901人である。9月30日までの利用には感染対策のための制約を設けており、合唱やバンド練習などの活動は使用を禁止し、会議などの活動のみ許可としていた。また、2月にはまん延防止等重点措置の区域指定に伴いキャンセルが相次いだ。

図書館の利用状況は、令和3年9月14日から3月31日までの図書貸出数は24,076冊(令和2年度18,438冊)、利用者数は6,421人(同5,257人)と増加しており、図書カードの新規登録は575人、再登録者は103人の実績である。また、ホール使用実績について、市の自主事業は15事業を開催しており、12月以降の公演は座席を1席ずつ空けるなど、密を避けた開催や無観客公演も3公演あった。

(3) 新文化会館整備事業、周辺市道整備事業及び旧グンゼ事務所棟・宿泊棟活用事業の実績(見込み)について

解体工事費の増額は見込まれるものの、予定額以内で収まることから、文化会館等建設事業の総事業費44億1,400万円に変更はない。

周辺市道整備事業は、市道宮越諏訪町線(改良、新規)、市道諏訪町1号・2号線(改良)、市道諏訪町下町南線(改良)を整備し、市民交流広場完成前に供用開始している。事業費は、市道宮越諏訪町線道路開設約1億1,319万円、市道諏訪町2号線他道路改良は約5,421万円、同2号線の転落防止柵設置を約175万円で行い周辺道路整備事業費総額は約1億6,915万円である。財源は、国の補助金4,192万円、合併特例債9,800万円、一般財源2,923万円である。

旧グンゼ事務所棟・宿泊棟の改修事業も完成してやぶ市民交流広場に合わせて供用を開始している。改修事業費は、事務所棟約6,147万円、宿泊棟約2,856万円、設計委託料約992万円を合わせた総事業費約9,994万円であり、財源は国・県の補助金と一般財源を充てている。

事務所棟は、1階を一般に開放して飲食可能なスペースにしており、高校生等の学習、市民の利用が可能である。今後は、高校生等の作品展示も行っていきたい。宿泊棟は、市が公募し選定した飲食店がテイクアウトでサンドイッチ、コーヒー、カレー等を販売している。

<まとめ>

八鹿文化会館・公民館の解体工事の基礎部コンクリート解体作業は、大型ブレーカーなどの使用により、これまで以上に振動・騒音・粉塵などの影響が懸念される。近隣家屋・住民へのより丁寧な配慮と、来庁者等への安全確保を徹底して事故防止に努められたい。

YBファブでは、コロナ禍でのオープンにあっても、無観客や入場者制限を行いながら多種多様なイベントが行われているが、旧町それぞれのホールや公民館では、地域ごとの伝統や特色を生かしたイベントが行われている。相互間のイベント計画を調整するなど、各施設を一体的に捉え、偏りのない文化・芸術推進に努められたい。

また、各施設が文化・芸術の拠点となるとともに、市内外の交流の促進と周辺地域の活性化に繋げられるようなイベントの実施を期待する。

供用開始以降、アンケートなどを通じて利用者の声が寄せられている。また、新たな施設や道路整備により、周辺住民の生活環境の変化に伴う意見も寄せられている。今後の施設機能の充実と改善に生かすとともに、必要な対策や修繕においては早急に対応され、新たな施設としての定着と市民の愛着の醸成に努められたい。